

## 中ヨークシャー種と交雑種における胸最長筋の組織学的検査と肉質の関連性

畜産研究センター

熊岡悟史、宇都宮昌亀

骨格筋を構成する筋線維はⅠ型およびⅡ型に分類される。豚では品種により筋線維割合が異なることが知られているが、中ヨークシャー種（Y）についての報告はない。そこで、Y4頭と交雑種（LWY）8頭の胸最長筋を用いた組織学的検査により品種間の差を調査し、肉質との関連性を検討した。

Ⅰ型筋線維割合は、Y15.9、LWY11.2%、筋線維Ⅰ型の大きさは66.3、63.7 $\mu$ m、Ⅱ型は86.7、80.0 $\mu$ m、筋束の大きさは699、706 $\mu$ m、筋束内筋線維数は53.3、61.9本と、いずれも品種間に有意な差はみとめられなかったが、Ⅰ型筋線維割合についてはYが高い傾向にあった。組織学的検査と肉質との関連性では、筋束中の筋線維数と肉色L値間、および筋束の大きさと肉色L値間に有意な相関を得た（ともに $r=0.69$ ）。筋束が大きく筋束内筋線維が多いほどL値が高い（肉色が淡い）傾向が認められた。

畜種：豚、分類：畜産技術、キーワード：中ヨークシャー種、LWY、筋線維